

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（理科） 指導者名（伊藤雅彦・布施菜々子）

生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する関心・意欲が高く、授業に集中して取り組むことができている。一方で、基礎的な内容が定着していない生徒も見られる。 ・実験・観察の考察を文章で表現することに、苦手意識をもつ生徒がいる。 ・計算に対して苦手意識をもつ生徒が多く、数字を見ただけで消極的になることがある。
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科に対して関心・意欲が高く、積極的に取り組むことができる。 ・実験・観察に積極的に取り組むことができるが、落ち着きがなく騒がしくなってしまうことがある。 ・実験・観察から得られた結果や考察を、個人や班で考え文章にすることができる生徒が多い。
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の結果を自分なりに考察することができる生徒が多くいる。その一方で思考するための基礎的な力がない生徒も見受けられる。 ・それぞれ考えは持っていますが、話し合い活動をするときや授業中の発言が特定のみに偏るようになってきている。 ・計算問題に苦手意識をもっている生徒が多く、問題を読む前に諦めてしまうことがある。

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の結果や自然事象を客観的に表現し、考察する力 ・実験・観察を安全に行うための技能や知識 ・基礎・基本が定着し、自分一人で思考することができる力

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を身につけるために授業の中で確認テストを定期的に行う。また、意欲向上のために自主学習ができる課題を用意しておく。 ・実験・観察の結果はタブレット端末を用いて記録することで、考察や発表する機会を多くする。 ・実験・観察を行う際には、それぞれの班での話し合い活動を設け、互いの意見を共有する。 ・計算の力をつけるために小テストを行い、基礎の定着を図る。
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を行う際は手順をタブレット端末に提示し丁寧に注意事項を確認すること、落ち着いて安全に取り組めるようにする。 ・実験・観察の結果や考察を班で確認し、タブレット端末を用いて共有すること、全クラス発表できる環境をつくっていく。 ・さらなる学習意欲の向上に向けて、思考できる課題提示を行う。また、授業内容の定着を図るために前時の復習や、小テストを行っていく。
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な力を身につけさせるために、1・2年生の内容をふり振り返りながらの授業を行う。 ・考察ができる問いを引き続き用意し、生徒一人一人が考える機会を設ける。また、それぞれの考えを発表する場面を用意する。 ・今まで学習した内容を復習していく中で、どこに着目する必要があるのかを確認し、基礎の定着を図る。 ・計算問題を授業の中で扱うことで苦手意識を少しでも減らす。また、計算を扱う回数を増やすことで諦めることがないようにする。